

H20 年全国町村長大会・意見発表
魚津龍一 富山県朝日町長

私のところは森林の多い町です。それが故に最近、二酸化炭素 6%削減の京都議定書ならびに北海道洞爺湖サミットにおける温暖化政策、その中でも森林が吸収する 3.8%削減をいかにするというを日々考えております。やはり森林の不在村地主を解消すべきではないかと思う次第です。政府与党においては、相続税をゼロにするという考え方もあったかと思えます。それならば相続の際、3 年以内に名義を書き換えていただく方が、自治体を預かるものとしては助かるわけです。そのことで山の境界を決めることができるのではないかと思う次第です。

次に後期高齢者医療制度ですが、議論を重ねて制度設計がなされ、この 4 月 1 日から施行されたわけです。富山県でもこの広域連合をつくりました。システム開発にかかる多額の費用の中には、国から 100%交付されていないものがあることも事実です。また最近いろいろなところで長寿医療制度を検討する会がつくられているやに聞きました。何故これだけぶれていくのか、私は自問自答しています。私の町では、9 月定例議会で長寿医療制度の条例改正をしようと思いました。県を通して厚生労働省に訊ねましたら、名称を長寿医療制度に変えてもよいとのことですが、これだけぶれる国の施策はないのではないのでしょうか。きちんとした方向を出してもらいたいと思っております。

高齢化については誰かが支えていかなければならないのは事実です。医師、看護師、介護にかかる方々のマンパワーの必要性が十二分に理解され、これからの日本の社会保障制度全体の議論をすることが重要であると思う次第です。

去る 9 月に全国町村会は、「町村の実態に関する改善方策」をとりまとめました。その中からひとつだけ申し上げたいと思います。今日本の政治は先が見えない状況の中にあるのではないかと思うわけです。これは小選挙区制度が導入された結果ではなかろうかというように、私は最近思うようになりました。小選挙区制度により、日本の国が方向を誤ったのか、これからもこれを続けていくのか、大きな節目にあらうかと思えます。しかしながら時の総理大臣が自分は引退するけれども、次男を自分の選挙区から出すということについては、私個人としては理解できないことであります。

そしてまた日本の人口が少なくとも 1 億人を切るという数字も出ている中で、国は衆参両議院の定数の見直しという大胆な政治改革に取り組んでいただきますよう、心から念願を申し上げます。

最後になりますが、「生まれる命は場所を選べない。」という言葉で結びます。